



- ・透析センターの診療体制～患者さんの社会復帰のために～
- ・透析の選択肢が増えました
- ・臨床工学技士の紹介
- ・いつまでも楽しく歩く
- ・市民公開講座
- ・『らいふ』を発行します

## 透析センターの診療体制

### ～患者さんの社会復帰のために～

透析は、腎臓の機能が高度に低下した患者さんに行う治療で、残念ながら腎臓そのものを治療するものではありません。腎臓は尿を作ることによって、体の中にたまった老廃物（尿毒素）を排泄する臓器です。腎臓の機能が低下すると、尿毒素を排泄できなくなり、たまっていきます。これを尿毒症といいます。尿毒症になると、体がだるい、食欲がないといった症状が出てきます。さらに尿毒症が進むと、息苦しくなる、意識レベルが低下するといった生命に関わる症状が出てきます。この尿毒素を透析によって体内から取り除き、尿毒症がなくなれば普段通りの生活を送ることができるようになりますので、腎臓の機能が高度に低下した患者さんが社会復帰を目指すためにとても重要な治療です。

では、実際の透析はどのように行われているのでしょうか？一般的な透析の場合、1回あたり3～4時間の治療を週3回（月・水・金曜日もしくは火・木・土曜日）病院において行います。この方法を施設血液透析と言います。わが国には現在約30万人の透析患者さんが治療を受けていますが、9割以上の患者さんは、この施設血液透析を行っています。

この他にも、在宅血液透析や腹膜透析などの方法があります。施設血液透析と違い、在宅血液透析や腹膜透析は共に自宅で行うことができる方法です。一定のトレーニングと介助者が必要ですが、自宅で家族との<sup>だんらん</sup>団欒の時間をもちながら治療を行うことができるため、より良い社会生活を送ることができます。

全国の在宅血液透析は約500人、腹膜透析は約1万人の患者さんが行っていますが、施設血液透析と比べると少数派です。原因のひとつとして、在宅血液透析や腹膜透析を支援することができる医療施設が少ないことがあげられます。

当院の透析センターでは、施設血液透析はもちろんのこと、在宅血液透析、腹膜透析を希望する患者さんの要望にもお応えしています。そのため、患者さん一人ひとりのニーズに合わせて治療を行うことができます。医師だけでなく、看護師や臨床工学技士も一丸となって患者さんの社会復帰をサポートします。

これから透析が必要となる方だけではなく、現在透析をされている方もぜひご相談ください。



腎臓内科部長兼透析センター部長

坂 洋祐

## 透析の選択肢が増えました

臨床工学技術室主査 東 秀一

透析とは、腎臓の働きを補う治療のことです。当院では平成28年3月から、透析のひとつである在宅血液透析を開始しました。現在、春日井市内で唯一支援することができる医療機関です。

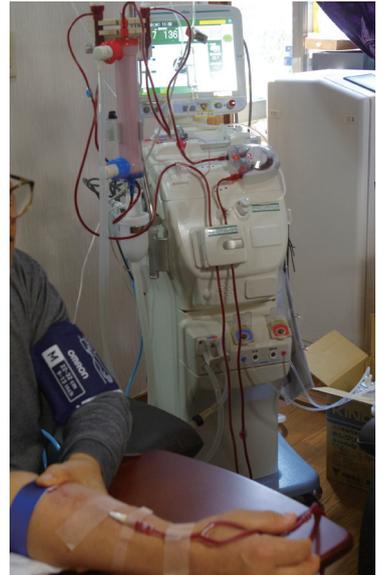
在宅血液透析とは当院と同じ機器を自宅に設置し、医療施設の指示に従い患者さん自身が介助者と共に自宅で透析を行う方法です。

在宅血液透析の利点は大きく2つあります。

1つ目は、患者さんのライフスタイルに合わせたスケジュールで透析治療が実施できることです。そのため、施設血液透析に比べ社会復帰を目指す上でも有効な治療方法です。また、施設血液透析は週3回通院、在宅血液透析は月1回の通院です。

2つ目は、透析の時間や回数を増やすことができるため、施設血液透析と比較して飲水・食事制限がほぼなく、合併症のリスクが減ることです。このように在宅血液透析は施設血液透析と比べ優れた点がありますが、透析を行うには介助者が必要であることや、透析機器を設置するための自宅の改装、透析を行うための技術の習得が必要です。

現在、臨床工学技士6名が在宅血液透析患者さんの指導を行っています。チーム内で頻りにミーティングを行い、個々の患者さんに合わせた最善で安全な方法を提供できるよう、一丸となって努力しています。在宅血液透析導入後も、安心して透析を続けられるよう医師と臨床工学技士が24時間電話対応できるようサポート体制を整えています。



## 臨床工学技士の紹介

臨床工学技術室長補佐 重松 恭一

臨床工学技士とは、透析センター、集中治療室、手術室などに配備されている血液浄化装置、人工呼吸器などの生命維持管理装置の操作や各種医療機器の保守、点検を業務とする専門職です。

当院では、心臓カテーテル検査やペースメーカー装着患者さんの治療や診察にも参加するとともに、手術室では全身麻酔器や電気メス、超音波出力装置、内視鏡装置などの保守点検や、心臓手術時の人工心肺装置、脳手術時のナビゲーションシステムの操作なども担当しています。このような多種多様な医療機器を備えており、



前列左から2人目が重松、3人目が東

それを操作する臨床工学技士も総勢17名在籍し、24時間、何時でも機器を稼働させることができる体制を整えています。

地域の基幹病院としての高度な医療をチームの一員として支えることにより、質の高い医療を提供しています。

シリーズ 第2回

いつまでも

## 楽しく歩く

整形外科 医長  
村瀬 熱紀

今回は、肩関節痛の話をしたと思います。中年の方々の肩の痛みと言えば五十肩で、診療を行っている中でも、頻繁に主訴に五十肩と書かれている患者さんをお見かけします。では、五十肩とは一体何でしょうか。実は中年以降に発生する肩関節の痛み（急性期）と可動域制限を伴う病気（慢性期）の総称なのです。関節にある腱や靭帯などが変性して肩峰下滑液包、関節包、腱板、上腕二頭筋長頭腱などに炎症が起こることが原因と言われています。治療は薬の内服や関節注射、運動療法などのリハビリを行います。

しかし、ご自身で五十肩と思われる方（なかなか肩の痛みが治まらない方）の中に、隠れた病気が潜んでいることがあります。その病気とは、腱板という肩を上げる筋肉の集まりが損傷される腱板損傷や、腱板にリン酸カルシウムが沈着し強い痛みを生じる石灰性腱板炎、神経が締め付けられることで肩周囲の痛みを生じる頸椎疾患などです。腱板損傷や石灰性腱板炎は、症状だけでは五十肩と判別ができないことがあります。このため、レントゲン検査、超音波検査、MRI検査などを行い早期発見、早期治療を行うことで肩の痛みが早く改善する可能性があります。腱板断裂の治療は保存的治療が第一です。注射や運動療法などを行い改善しない方には関節鏡（カメラ）を使用した手術を行っています。また、石灰性腱板炎に対しては腱板内に生じたリン酸カルシウムを超音波下に注射器で吸引する治療を行っています。受診された日に症状が全く無くなる患者さんもおみえになります。

セルフチェックを載せますので、チェックの数が多い方は早めに病院を受診することをお勧めします。

## 肩関節疾患の簡単セルフチェック

- 転倒し手をついた後から肩の痛みがある
- 夜間、肩の痛みで目が覚める
- 肩を下にして眠れない
- 手を外側から上げる事ができない
- 手を下ろす時に痛みを感じる
- 手が後ろに回らない
- 肩周囲の筋肉が細くなった



# 市民公開講座

平成29年6月10日(土)総合保健医療センターにて、「緊急事態—そのとき必要な医療は—」をテーマに第50回市民公開講座を開催しました。院長を始め、多くの医師が「災害拠点病院の役割」や「災害時に役立つ知識」について講演し、約150名の方が聴講されました。今回は、50回目の記念イベントとして各部署が工夫を凝らしたブースを多数用意し、いずれのブースも多くの人でにぎわっていました。



次回の市民公開講座は平成29年9月9日(土)午後1時から午後3時30分まで総合保健医療センターにて開催します。テーマは「**支えたい〜ママのこと、守りたい〜赤ちゃんのこと(アレルギーの観点から)**」です。

演目は、「最近のお産事情と産後ケア」、「当院で提供している産後ケアと子育て支援サービス」、「乳児期のスキンケアと食物アレルギーとの関連について」の3題で、医師と助産師が講演します。また、講演終了後には、薬剤師によるお薬相談、助産師によるスキンケア体験を行います。

事前予約、整理券配布は行いませんので、お越しいただいた方から順にご案内します。キッズスペースをご用意しておりますが、ご利用の際は保護者同伴をお願いします。

## 『らいふ』を発行します

『らいふ』では、健康診断の検査結果から「どのような病気が疑われるのか」、「精密検査ではどのような検査があるのか」、「受診にあたりどの診療科を受診すればいいのか」などを簡潔にわかりやすく紹介します。

初回は、心電図検査、肺機能検査、胃部X線(胃バリウム)検査について発行します。当院や総合保健医療センター等に設置しますので是非、ご一読ください。

病院新聞



発行 春日井市民病院 広報委員会

〒486-8510 春日井市鷹来町1丁目1番地1

■電話 0568-57-0057(代表)

■ホームページ <http://www.hospital.kasugai.aichi.jp/>

■Facebook <https://www.facebook.com/hospital.kasugai.aichi.jp>



ホームページ  
QRコード